

# 海外研修経験から見た大学図書館

琉球・沖縄研究×デジタルアーカイブ×大学図書館

2023年度大学図書館職員短期研修（10/17）

琉球大学附属図書館

富田 千夏



# 自己紹介

- 冨田 千夏（とみた ちなつ）
- 琉球大学附属図書館情報サービス課保存公開係長
- 博士（学術：中琉関係史）
- その他の所属
  - 名桜大学環太平洋地域文化研究所共同研究員
  - 沖縄県教育委員会歴代宝案編集委員会委員
- 主要な著論文等：  
<https://researchmap.jp/qianxia0804>

# 経歴

- 2007年-2014年9月：琉球大学大学院人文社会科学  
研究科, 比較地域文化専攻
- 2008年4月-2013年3月：琉球大学附属図書館情報  
サービス課, 事務補佐員（沖縄資料担当）
- 2013年4月-2018年3月：琉球大学附属図書館情報  
サービス課, 一般職員（沖縄資料担当）

※選考採用によります

- 2018年4月：現職
- 2018年7月：平成30年度大学図書館職員長期研修  
※短期研修は受けていません

# 主要な担当業務

- 郷土資料（沖縄関係資料）の収集・保存・公開に関する事全般
- 学外企画展、デジタルアーカイブ、文献書誌データベース..等
- 本学の歴史資料に関する事全般
- その他
  - 漢籍・古典籍、マイクロフィルムの管理
  - 絵画資料（沖縄関係資料として）
  - YouTubeもやっています

# 海外派遣事業とは？

- 国立大学図書館協会では、図書館における海外の先進的な事例を調査・研究し、わが国の学術環境の中でどのように展開していくかを検討すること、また、国際連携という観点から、図書館活動に関連する国際会議へ参加し、日本の状況等について発表することを目的に海外派遣事業を実施しています。（WEBサイトより）
- →海外の事例の調査・研究
- →日本の状況を海外に発信

# 何が知りたくて台湾に？



デジタルアーカイブ  
を長期維持する為には  
何が必要か？

# 担当者の悩み事

- デジタルアーカイブは「維持」が大変
- 経費捻出の難しさ：お金がないと始まらない
- システムの有効性をどう可視化するか？
  - PV数だけでは“使われている”とは言えない
  - 利活用の実績が目に見える形にするには！？

## ※所属館での悩み

→ 他機関も同じかも？

# なぜ海外（台湾）に？

- デジタルアーカイブなら欧米でもいいけれど・ ・
- 台湾
  - 長年活用されているデータベースが多い
  - データを「活用」した成果公開にも積極的
- 英語以外の言語による人文系研究における利用実績や評価をどのように集約しているかを知りたい
  - 欧米より東アジアの事情を知りたい。



# 台湾と琉球・沖縄

- 台湾大学図書館所蔵の琉球関係文書
- 近代以降の沖縄と台湾
- 台湾×「台湾研究」、沖縄×「琉球・沖縄研究」
- 琉球大学が「琉球・沖縄研究」を進める意義は？  
→ 図書館に何ができるか？

\* 「自大学の特色」は何だろうか？

\* 「自大学の特色」に対して、所属の図書館で何ができるだろうか？

よし、台湾  
に行こう！

宮本鶏肉

屈臣氏

三葉足体養身館  
(02)2599-51

三葉

健保

成水雞

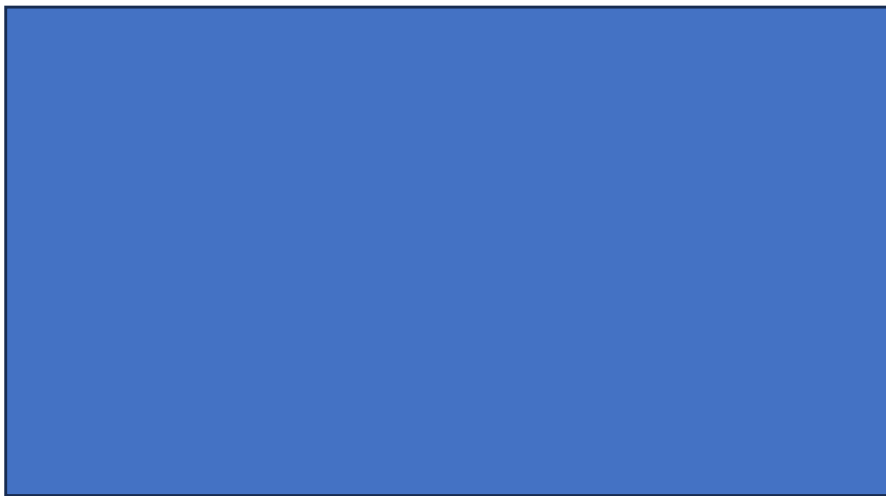
# 海外派遣事業 応募～派遣まで

- 2021年 3月：海外派遣事業に応募  
※最後のチャンス（年齢制限）だった
- 2021年 5月：海外派遣者に決定。延期申請
- 2022年10月：渡航計画書の再提出
- 2022年11月：学会参加（オンライン）
- 2022年12月：渡航計画書の再々提出  
※台湾入域後の待機期間変更に伴う計画変更
- 2023年 2月：渡航

# 研修の概要

数年ぶりの出張が台湾でした・・・

- 令和4年11月19日-11月20日：学会参加
- 第18回中琉歴史関係国際学術会議（オンライン）
- 令和5年2月13日～2月17日：現地調査
  - (1) 国立台湾大学：図書館、数位人文研究中心
  - (2) 中央研究院：台湾史研究所文書館、数位文化中心
  - (3) 他：故宮博物院・台湾博物館・国家図書館

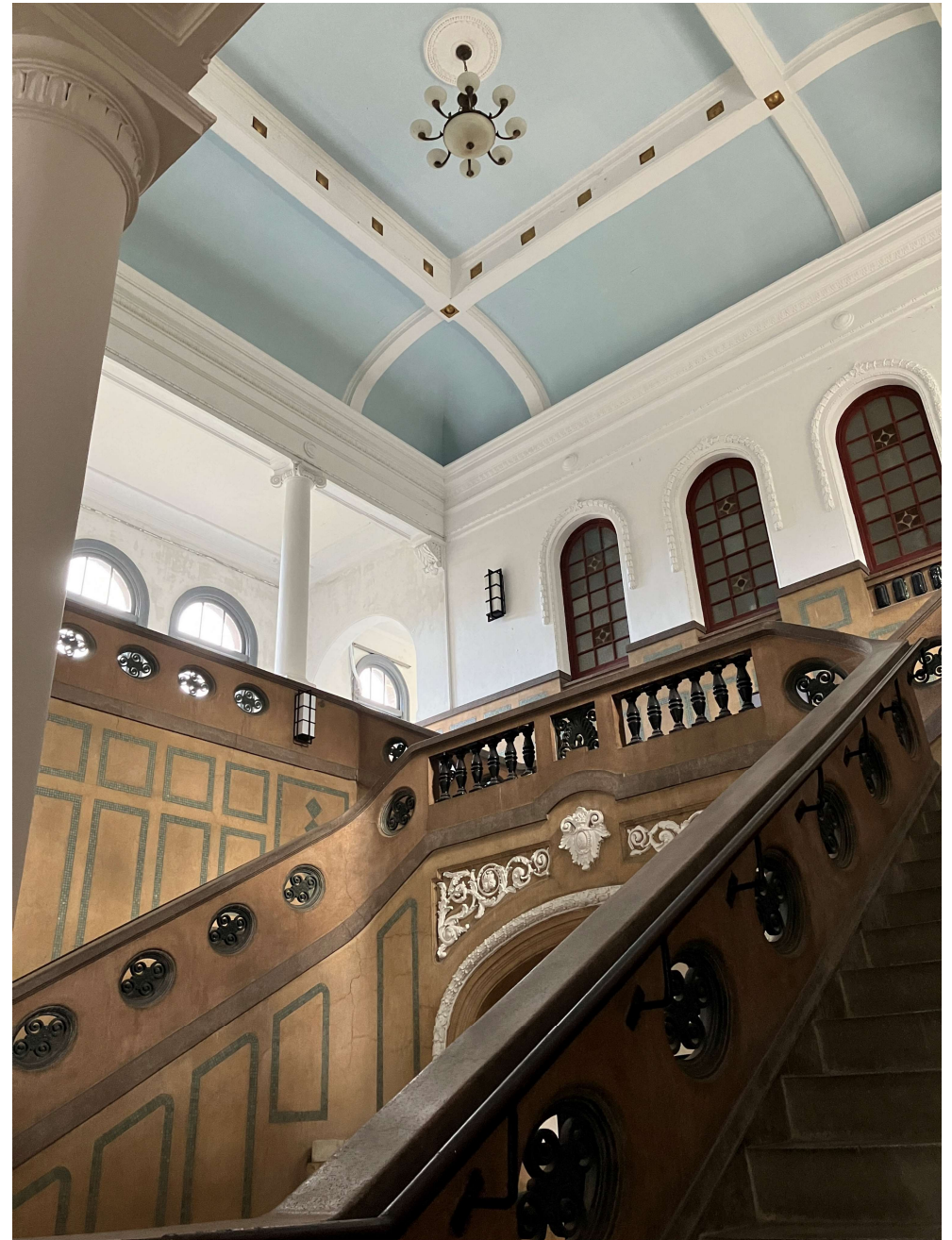


※第18回中琉歴史関係国際学術会議

※台湾大学歴史学系の客員研究員として渡航

# 国立台湾大学





# 中央研究院





# その他



# 海外研修を 経て

# 研修で得たこと

- 「古文書を楽しむ」視点（研究だけじゃない）  
→ 今までにない新しいことができるかも
- 公開→利用者が「加工して分析する」時代へ  
→ 新しい研究が生まれるかも
- 悩んでいる部分は日本と共通  
→ しかし、できる工夫はやっている

※今までにない利用の在り方は不安？  
→ 大半の利用者は良心的

# 研修後：まずはできることから

- 引用情報収集の方法の検討
- 「データを研究に活用する」方法の模索  
すでにあるテキストデータの活用は？
- SNSを通じたプロモート：YouTube、X (Twitter)
- 教員との連携：市民講座、大学教育への活用



ご清聴ありがとうございました

※この海外派遣についての報告は後に『大学図書館研究』（国公私立大学図書館協力委員会発行）に掲載される予定です。

# 参考文献

- 笠羽 晴夫「1. デジタルアーカイブの歴史的考察」『映像情報メディア学会誌』61(11), 2007年
- 稲石奈津子・神谷敏郎「人文・社会科学系の研究力可視化に向けたとりくみ」『学術の動向』23(10), 2018年
- 菊池 信彦「デジタルアーカイブをめぐる現状と課題：歴史学のオープン化に向けた意識改革を求めて」『歴史学研究』No. 974, 2018年
- 後藤真「特集 | 人文・社会科学系研究の未来像を描く-研究の発展につながる評価とは-」『学術の動向』23(10), 2018年
- 大谷周平, 富田千夏「琉球大学附属図書館のデジタルアーカイブ事業」『沖縄県図書館協会誌』no. 22, 2019年
- 桜井有里, 住本研一「[A25] デジタルコンテンツへのDOI付与のすすめ: 日本をつなぐ~アクセスをいつまでも~」『デジタルアーカイブ学会誌』3(2), 2019年
- 後藤真「人文学の研究を可視化し未来につなぐための評価とその指標」『大学出版』121号, 2020年
- 「3か年総括報告書 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」(デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会, 2020年8月19日)  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive\\_suisiniinkai/pdf/r0208\\_3kanen\\_houkoku\\_honbun.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/r0208_3kanen_houkoku_honbun.pdf)
- 富田千夏「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブについて」『琉球沖縄歴史』3, 2021, 122-127頁。
- 永崎研宣「デジタルアーカイブシステムにおける標準化技術」『情報の科学と技術』71(4), 2021年
- 大井将生「デジタルアーカイブの教育活用をめぐる可能性と課題—実践を例に—」(カレントアウェアネス No. 352 2022年06月20日) <https://current.ndl.go.jp/ca2018>
- 科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会「人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について(とりまとめ)」2023年2月7日